



体はミクロで考えるべきか、それともマクロで考えるべきだろうか。多分どちらにも必要だろうと、誰もが思うだろう。医科では、総合診療科やかかりつけ医の重要性が専門医に劣らないと認識されてきている。しかし歯科の知識も必要だと思われる医科の先生はほとんどいない。



先日、製薬会社主催の講演会に出席したが、肺炎が専門の大学教授でも、口腔ケアと誤嚥性肺炎の関係についてはあまり興味がないように見受けられた。口腔と肺は気

知識を共有し治療を

□□ 32 □□

道によって直結する組織で、口腔内細菌による肺炎は高齢者には大きな問題なのである。医科の歯科に対する認識の低さに、驚きというより悲しさを感じた。

抗菌治療で歯周病が改善した患者さんから、体調まで改善したと言われた。また逆に肺炎の治療で歯周病が改善されたことも、論文で報告されている。呼吸器疾患と顎の発達、頭痛と歯並び、肩こりと歯ぎしり、アレルギーと歯科用金属など多くの疾患に歯科が関係している。

だからこそ医科と歯科の関わり合いが必要不可欠だと思うのだが、いつになったらこの声が医科の先生方に届くのだろうか。臨床での多くの気づきが、より多くの立場の先生に届き、疾患の正しい認識・治療につながり、患者さんの苦しみがなくなればよいと思う。私たち歯科にも、マクロの医科の知識が必要なのではないか。